

しせんのため「ぼくが出来るじよ

浜松市内小学校

北嶋さん

ぼくは、いつも夏休みになると、おじいちゃんとお兄ちゃんと親せきの家に遊びに行きます。親せきの家は、ぼくの家とおなじはままつ市内にあるけれど、うら川という場所で、とても山おくにあります。うら川には、川遊びや魚つりができる大きな川もあるので、ぼくは親せきの家に遊びに行くのをとても楽しみにしています。

今年も8月に、おじいちゃんが連れて行ってくれました。ぼくは、車にのっている時からわくわくしていました。

親せきの家に着くと、「いここがぼくとお兄ちゃんに

」早く川に行って遊ぼうよー!

と言いました。だから、ぼくたちは大いそぎで水着に着がえて、みんなで川に行きました。

川に着いて、水の中に足を入れると、氷のようにキーンとして、足のゆびからジンジンジンジンとつめたさが体の中につたわってききました。川のそこにはいわがたくさんあってコケが生えていました。歩くとなルツとしてすべりやすいけれど、よく見るとせ中がにじ色にかが

やいて、ヒシが黄色い魚がコケをつついていました。

ぼくはふしぎに思ったので、家に帰ってから調べてみる事にしました。お母さんといっしょにパソコンでけんさくすると、親せきの家の近くの川は「大千世川」という川で、あゆが生そくしている事が分かりました。そして、あゆは川その石についた草るいを食べるそうです。あゆはにこった水中では生きられないため、あゆが住むということは水じつうつくしさのバロメーターになるそうです。

ぼくは、川の様子を思い出しました。川のまわりにはぼくのじつべらいの高さの草が生えていて、近くにはキャンプ場もあったけれどゴミが一つも落ちていませんでした。ひら泳ぎをすると、水中にもぐった時に目を開けたら太よの光がなみうって見えました。とてもきれいでした。きつと、あゆもゆうがに泳いでいるんだと思いました。大千世川は、とてもきれいな川でした。

ぼくの家まわりには、川はないけれどゴミがたくさん落ちています。おかしつつみ紙やペットボトルなどがよく落ちていて、学校帰りにゴミを見つけると悲しくなります。(もし、大千世川のまわりにもゴミがたくさん落ちていたら、あゆが住めなくなってしまうこと、ぼくはふ安になりました。

ぼくは、家の前の竹やぶでゴミひろいをしてみました。ゴミは、ま

るでわざとかくしてあるかのように、落ち葉の下にありました。ビールぶくろがいっぱいになるまで五分もかかりませんでした。

コミひろいを試みて、コミの多さにおどろいたけれど、自分が今までそれを知らんぷりしていた事にも気がつきました。コミをすてる人が一番悪いけれど、それをそのままにする人も悪いんだなあと思いました。

これからは、コミを見つけたらなるべくひろつようにしたいです。そして、ぼくの住む浜松市がもっときれいになるといいです。